

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503817		
法人名	有限会社ウエル・ビーイング		
事業所名	とらいあんぐる 太陽		
所在地	札幌市白石区菊水元町5条2丁目2番18号		
自己評価作成日	令和2年11月10日	評価結果市町村受理日	令和2年12月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvogyoCd=0170503817-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvogyoCd=0170503817-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和2年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員が基本理念とケア理念を共有している。</li> <li>入居者様一人ひとりのできる事を大切にし、個別ケアの提供を心掛けている。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「とらいあんぐる太陽」は、近隣にスーパーマーケットや飲食店、郵便局などがあり生活の利便性が高い場所に立地している1ユニット9名のグループホームである。居間と食堂は大きな窓に面した明るい造りで、感染予防対策としてテーブルにパーティションを設置している。トイレや浴室は居間から見えない場所にありプライバシーに配慮されている。居間の壁や廊下には、季節の装飾や利用者の日常の様子が窺える写真、子供達からのプレゼント作品などが飾られている。例年は同法人の児童デイサービスの子供達や小学生との交流も活発に行われており、手作りのプレゼントをもらったり楽器演奏などを楽しんでいる。今年度の運営推進会議は書面会議を開催しているが、内部研修で学んだ内容を伝えたり、事前に「評価・意見・要望書」を全家族に送付して意見や質問を募り議事録で回答するなど工夫した取り組みを行っている。利用者一人ひとりの思いや家族の意向を細やかに介護計画に反映させ、各利用者に応じた適切なケアについて話し合い統一した支援を行っている。新たにトイレや浴室に手すりを設置し、利用者の残存能力を活かしながら可能な限り自立した生活が継続できるように温かなケアを行っている。管理者は常に職員と意見交換しながら働きやすい職場環境づくりに努めており、離職率が低い事業所である。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の基本理念とケア理念がある。共用部分の見やすい場所に掲示している。時に理念を唱和し共有して実践につなげている。	職員と共に作成した「その人らしい 安心した生活を 地域と共に いつまでも提供します」という地域密着型サービスを意識したケア理念を事業所内の要所に掲示している。職員はユニット会議で唱和したり、掲示を見て確認しながら共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運動会等、町内会の行事には積極的に参加していたが、今年はコロナ禍で、行事そのものが中止になっている。	例年は日本舞踊や歌、手品などのボランティアが定期的に来訪したり、小学生が訪れて楽器演奏などを披露している。散歩の機会に近隣の保育園児と触れ合うこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、認知症の人の理解や支援方法を、地域の人々に向けて活かしている。今年はコロナ禍で、書面会議を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在の運営推進会議は、毎回違う内容で書面会議を行っている。そこでの意見をサービス向上に活かしている。	前年度は地域包括支援センター職員による「延ばそう健康寿命」の講話などを行っている。今年度は事前に「評価・意見・要望書」を家族に送付して意見や質問などを募り議事録で答えるなど、工夫した書面会議を開催している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各手続きは、直接区役所へ出向いたり電話連絡をし、事業所の実情を伝えている。	管理者は各種サービスの手続きなどで役所を訪問している。保護課の担当職員と電話で連絡を取りながら利用者の状況に応じて相談することもある。何かあれば相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、マニュアルを整備している。身体拘束禁止行為11項目について掲示し、年2回の内部研修を行っている。防犯のため玄関は施錠しているが、入居者様の中から開ける事ができる。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載した身体拘束廃止マニュアルを整備している。家族の同意を得てベッド柵を使用している方がおり、毎月検討会議を開催して家族に書面で報告している。今後は身体拘束適正化委員会の議事録や勉強会の資料を分かりやすく整理したいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴や更衣時など皮膚の観察を怠らず、虐待が見過ごされる事がない様に注意している。また、年1回内部研修を行っている。		

とらいあんぐる太陽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、ユニット会議で研修会報告を行い、職員間で情報共有をしている。(今年度は新型コロナウイルス流行のため外部研修に参加出来ない)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者及び計画作成担当といった一定の立場の職員2名以上の立ち合いで十分な説明を行い、双方が納得、同意をし、契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談ボックスを設置している。 意見や要望があれば管理者及び計画作成担当者が相談の場を設け、意見等があった場合には運営に反映させている。	来訪時や電話で利用者の様子を伝えて家族の意見や要望を聞き取り、申し送りノートに記載して情報を共有している。「とらいあんぐる太陽通信」を発行し、個別の様子を毎月家族に伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っているユニット会議等で職員の意見交換の場を設け、その意見を反映させている。	ユニット会議に参加できない職員の意見や提案も事前に聞き取り会議に活かしている。管理者は職員と個人面談を実施している。職員は居室担当の他、通信や行事などの各委員を担当している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談の実施、職員からの希望があれば相談できる場を設けている。 日頃の業務に対するアドバイスや職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に数回内部研修を行い、また外部研修を受ける機会も個々に設けている。 (本年度は新型コロナウイルス流行のため行っていない)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加する事で同業者との交流の場を作り、新しく得た知識等を職場にて共有することで、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者・計画作成担当者として入居前面談を行い、困っていること不安に思っていること等を聞き取りし、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にも聞き取りを行い、ご家族ならではのご苦労や不安等にも寄り添うよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在何に困っているのか、どうありたいのかを伺い、入居前のサービス利用状況も踏まえた上で、総合的なケアプランの作成を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事や出来る方は一緒に居室の掃除等の日課を共にし、日々の暮らしを共にするものとして認識して頂ける様にしている。個々、出来る事は行って頂き、役割を感じて頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の様子は常に報告している。また、月に一回通信では日常の様子も書いている。 職員とご家族で共通の認識のもと、支えていくよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身内の方や、知人の方の面会を積極的に受け入れたり、ホームでの行事などにもご家族をお誘いし、関係性が継続する様、支援を行っている。	近所に住んでいた知人からハガキが届いたり電話が来る利用者もいる。外出行事で利用者の好きな動物園に出かけている。家族と馴染みのレストランに出かけたり、自宅で親族に会うこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や、認知症の状態を把握し、また、その人らしさを大切にしながら、入居者様同士が良い関係を築き共同生活が送れる様、支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後にご家族や、転出先の職員等から問い合わせがあれば、可能な限り支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前には本人・ご家族から今後の生活への望み等聞き取りをしている。入居後も本人の意向を伺い、また汲み取り、定期的な検討会と併せて意向をケアに反映させている。	会話から把握したり表情や仕草を見て傍に寄り添い、さり気なく声かけしながら思いや意向を読み取っている。センター方式シート(B-3)を使用しているが、追記や更新にばらつきが見られる。	利用者全員の現状が分かるように、変化に応じてセンター方式シート(B-3)に追記したり更新を行うよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様・ご家族からの聞き取りや、センター方式も活用している。また、入居前に利用されていた事業所等にも情報提供をして頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察を怠らず、変化を見落とさないようにしている。介護記録や申し送りにて、その情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のユニット会議と、3ヶ月に一度のモニタリングからケアカンファレンスにて、関係者と話し合うことで現状に沿ったケアを行えるようにケアプランを作成している。	利用者担当職員の評価を基に全職員で検討し、家族の意向を反映させながら3か月ごとに介護計画を作成している。変化に応じて「課題分析シート」も作成している。サービス内容に沿って、変化などを日々の記録やケアプラン実施表に記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録やケアプラン実施表への記入で、実践からモニタリングへと繋げている。現状の変化があった時は、連絡ノート等用いて、速やかにケアの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家庭、各々の事情に配慮して、画一的なサービスにならない様になっている。今回で言えばコロナ禍の折、テレビ電話の利用や、玄関のガラス戸越しの面会など可能な限り個別に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や町内会活動を通じて、地域との繋がりを持っている。避難訓練等で近隣の方にご協力頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に一度のかかりつけ医の往診を実施している。その他に専門医の受診が必要であれば、すみやかに受診出来るよう連絡調整を行っている。	利用開始時に説明し、現在は全員が協力医療機関の往診を受けている。専門医を家族と一緒に受診する時は本人の様子を口頭で伝えている。往診と受診の状況は個別に記録している。	

とらいあんぐる太陽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、訪問看護では、入居者様の現状を伝え相談して、その後のケアに活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者は入居時から病院関係者との連絡を積極的にとり、早期退院に向けて、本人・ご家族を支えている。その後も役立つように、病院関係者との関係性の維持を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化し入院されている時は入院先やかかりつけ医、ご家族とも協議をし、希望に沿えるような支援に取り組んでいる。	利用開始時に「重度化した場合の対応指針」に沿って、事業所として可能な対応や看取りについて説明し家族の疑問点にも丁寧に答えている。体調変化に応じて家族、事業所、主治医と方針を話し合っているが、見取りまでには至っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修の参加で、スキルアップを図っている。また緊急時の対応も目の付く場所に掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害を想定した避難訓練を、全職員が参加できるよう定期的の実施している。近隣住民の方にもいざという時に協力をお願いしている。非常災害対策計画も設定している。	例年は消防署と地域住民の協力を得て避難訓練を実施している。今年度は火災や地震、水害を想定した自主訓練を3回行っている。職員と共に地震時の危険箇所を確認しているが、今後はケア別の対応についても話し合いたいと考えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢で認知症である皆様の尊厳を保持し、礼節をわきまえた言葉かけや対応を行っている。また、年に一度虐待に対する研修を実施し、初心を忘れないようにしている。	気になる言葉や声かけなどがあれば申し送りの際に注意をするよう伝えている。職員間で話をする際は、個人が特定できないように利用者のイニシャルで話をするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自ら、自身の思いを上手に伝えられるとは限らないので、その思いを引き出せるような聞き取り、職員がその方の立場となって少しでも思いを汲み取れるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の日課を基本にしつつも、本人の希望を大切にしている。ただ廃用症候群をまねかないよう、その方なりの活動の仕方を考え提供もしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援が必要な方には、好みや季節に合った衣類を用意している。自身で選ばれる方にも、身だしなみが整うよう助言している。整容でもその方に合ったケアをし、支援している。		

とらいあぐる太陽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嚥下状態・歯の有無等、一人ひとりに合わせた食事形態で提供。今年はコロナで外食は控えているが、食事会を定期的に行っている。入居者様には茶碗拭きやテーブル拭きを手伝ってもらっている。	利用者の状態に合わせ、とろみをつけるなどの工夫をしている。とうもろこしの皮むきなどの食事作りの手伝いを利用者が行っている。月に1回、寿司やハンバーガーなどを購入し食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部の献立なので、栄養バランスには配慮出来ている。飲水は個々に合わせて促したり、水分提供を行い記録にも残すことで、過不足の無い様になっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のケアを基本としている。個々に合った道具を使用し、職員の方で介助させて頂く事で清潔を保っている。また、定期的な歯科受診を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況に合うケアを行っている。自立された方でも、見守りや声掛け等の支援を行っている。	夜はおむつやパッドなどを使用している利用者もいるが、昼は2人介助が必要な利用者でもトイレでの排泄を支援している。交代で声かけを行うなど職員間でも協力し合い自立の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の申し送りで、各自の排便状況を共有している。下剤の調整や腹部マッサージを行う事で、便秘予防に努めている。また、看護師との連携をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	湯船にゆっくりと入っている時も、談笑等を楽しんで頂いている。	浴室に手すりを増設し、安心して入浴を楽しむことができる。希望に応じて同性介助や入浴時間の変更などにも対応している。入浴剤を使用してゆっくりと入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体力を考慮して、午睡を取り入れている。また、気持ちよく眠って頂く為に、寝具は常に綺麗にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋等は個人ファイルに保管し、常に確認する事が出来る。変更等があれば、都度連絡ノートで情報を共有している。与薬も個々に適した方法で行い、誤薬の無い様にしっかりと日付と名前を読み上げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し・たたみ等は、ご自身で行ったり、他の入居者の洗濯物もたたんで頂いている。レクは、ゲームや合唱を取り入れている。また、季節に合った飾りつけをしている。		

とらいあんぐる太陽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい時期等は、ホームのベンチに座り外気浴をしている。また、近くの公園に行ったりしている。外出レクについては今年はコロナの関係で今現在は外出レクを控えている。	車いすの利用者も一緒に近所を散歩している。車で豊平公園や川下公園などへ花を見に外出したり、動物園やバイキングを食べに出かけることもある。家族と病院の受診後に食事をするなど、外出が制限される中でもできる限りの支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様で自己管理が出来ないので、現状はご家族管理である。今現在は所持している入居者様はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話があれば、その都度お話しして頂いている。入居者様宛に荷物が届いた際には、こちらから電話をしている。また今年はコロナで面会が出来ない事もあり、タブレットのテレビ電話を利用してご家族様と会話している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への日当たりがとても良いので、その都度カーテンで日差しの調整をし、季節によって温度・湿度の調整をしている。また、廊下には日常風景や行事の写真を展示している。	共用空間にはエアコンや空気清浄器が設置されていて快適に過ごすことができる。職員の製作した装飾や行事の時の写真などが飾られている。台所が対面式であり、食堂と居室に面している廊下を見渡すことができるため、利用者の見守りをする事ができ安心して生活することができる造りになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は居間の方でほとんど過ごされている。各自の席は気の合う者同士、同じテーブルに座って頂く等の配慮をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居された際、馴染みの私物を持ち込まれている。季節に応じて、居室担当の職員が衣替えなどを行い、配慮をしている。	吊り戸棚やハンガー掛けが部屋に設置されていて便利な造りになっている。介護用ベッドも備え付けで置かれているため、安心して暮らすことができる。家族の写真を飾ったり、テレビを持ち込むなどして居心地のよい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名札、共有スペースには場所が表示されている。職員は常に入居者様の動きを見守り、さりげなくフォロー出来る様に努めている。		

目標達成計画

事業所名 とらいあんぐる太陽

作成日: 令和 2年 12月 17日

市町村受理日: 令和 2年 12月 18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	センター方式シート(B-3)を使用しているが追記や更新にばらつきがみられる。	全入居者に対して変化に応じた追記や更新を行う。	全入居者のセンター方式シート(B-3)を年に1回見直す。大きな変化がみられる場合は都度追記する。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。